

第23回平荘小学校狂言発表会《NO.3》 リレー形式で、つなぎました

第23回平荘小学校狂言発表会では、一人一人が自分の役割をしっかりと果たして、次の人につないでいきました。

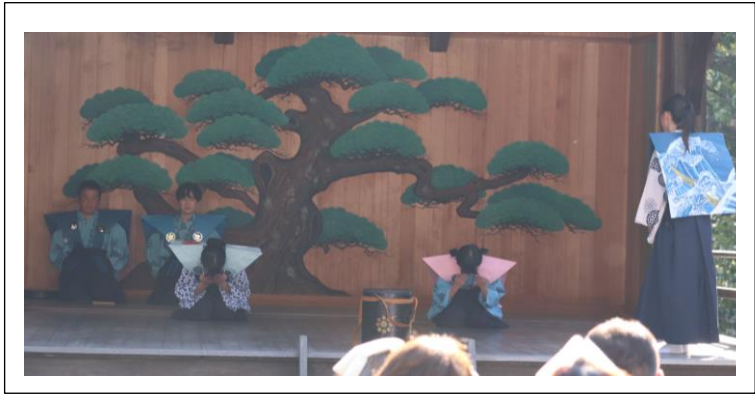
6年生は、狂言を通して、仲間との絆が一層深まっています。



『附子』(続き)



「ぐわらりん。」「ちーーーーん。」の擬音語を大切に演じました。稽古の際に、山口先生から教えていただいたことを、しっかり確認し、本番で実践していました。狂言学習に対する真剣さを感じました。



『柿山伏』より



一人一人が、自分の役割に責任をもち、最後まで演技をつなぐことができました。時代が時代ならば、太郎冠者や次郎冠者がしたことは許されるものではありません。最後に、主人を敬いつつも、太郎冠者と次郎冠者が「あ〜ら、かしら堅やんや。」と遠慮しながらも主人の頭を扇子でボンとするところが狂言のおもしろさです。上手く表現できました。

威厳のある山伏を演じました。



畑主は、山伏を見ないことで、山伏よりももっと高い所を見ることで、大きな柿の木を表現しました。この演技が、後の演技に影響します。

Ⓜ 「・・・これはちと渋そうなが・・・、
あむあむ、む・・・ぺっ・・・。」

Ⓜ 「ア痛ーっ、ア痛、ア痛、ア痛ーっ。」
の2人のタイミングがピッタリ！よく息が合っていました。

山伏が「こくわあ～、こくわあ～、こくわあ～」と叫んでいると、観客席から同じように、「こくわあ～、こくわあ～、こくわあ～」と口真似が聞こえてきました。



2人の視線が素晴らしいです。山伏は高～い木の空から下を見下ろす感じを表現し、畑主は高～い木に登っている山伏を見ているように、視線を上にして表現しています。



役になりきり、けんか腰でセリフのやり取りを行いました。顔の表情にも気持ちが表れています。



『猿唄』より



一人一人が精一杯発声をしました。6年生全員の心を一つに謡を披露しました。

